

新津の山に大きな遺跡と古墳があった

—歴史を変えた古津八幡山遺跡—

坂井秀弥(新潟市歴史博物館長)



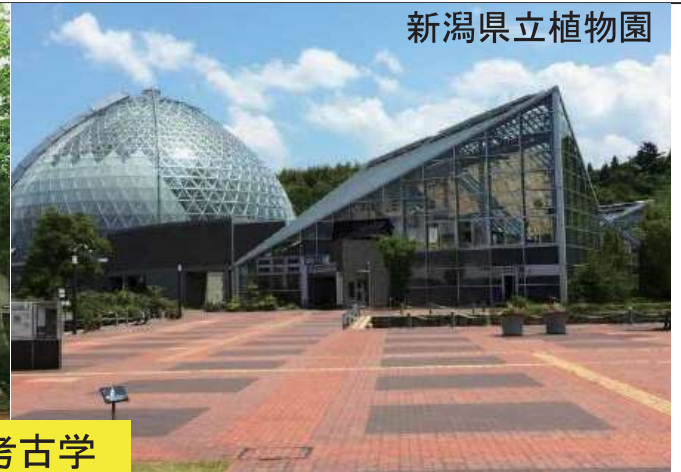
史跡古津八幡山遺跡(2005年指定)
弥生高地性集落/古津八幡山古墳

©新潟市文化財センター

新潟県埋蔵文化財センター



新潟県立植物園



1. 遺跡発掘と戦後日本の考古学
2. 新潟にもあった古墳とその前史
3. 古津八幡山遺跡の発見
4. 保存の声と確認調査の継続
5. さいごに一遺跡の意義

・1987年10月、初めてこの地に立ってから35年。思いもがけず見つかった県内最大の古墳と弥生集落は、多くの方々の理解と協力のもと保存され、2005年、国史跡に指定されました。

・いま遺跡は史跡公園となり、周辺の美術館や植物園などとともに、歴史・文化や自然豊かなゾーンとして、多くの市民の方々に親しまれています。

・新潟市・県を代表する重要な遺跡・文化財が、こうして幅広く活用されることは、かつては想像できませんでした。

・本日は、最初の遺跡発見に立ち会った者として当時を振り返り、遺跡の意義を考えるとともに、関係した多くの方々に感謝申し上げたいと思います。



1. 遺跡発掘と戦後日本の考古学



考古学ブーム到来

高松塚古墳(特別史跡・国宝): 1972年発見

発掘調査と歴史の書き換え

弥生時代のクニの全貌

吉野ヶ里遺跡(特別史跡): 1989年



豊かな縄文文化

三内丸山遺跡(特別史跡): 1994年



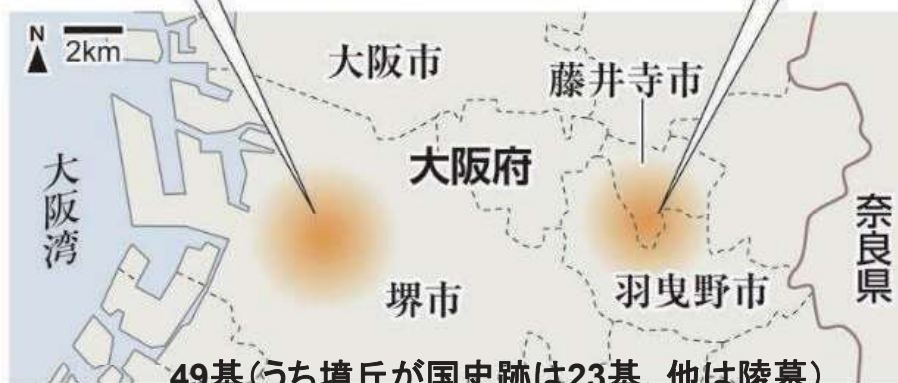
遺跡が世界遺産に！

百舌鳥・古市古墳群 (2019.7登録)

百舌鳥エリア



古市エリア



49基(うち墳丘が国史跡は23基、他は陵墓)

【遺産の評価】

広域の豪族連合政権による初期国家/墳形と規模の差異が被葬者の身分差を反映/日本固有の文化で、土木建造物の極めて優れた技術

北海道・北東北を中心とした 縄文遺跡群

2021年7月登録
北海道・青森県・岩手県・秋田県の17遺跡

【ユネスコ・イコモスの遺産評価】

- ・先史時代における農耕を伴わない定住社会および複雑な精神文化を示す
- ・定住社会の発展段階やさまざまな環境変化への適応を示している

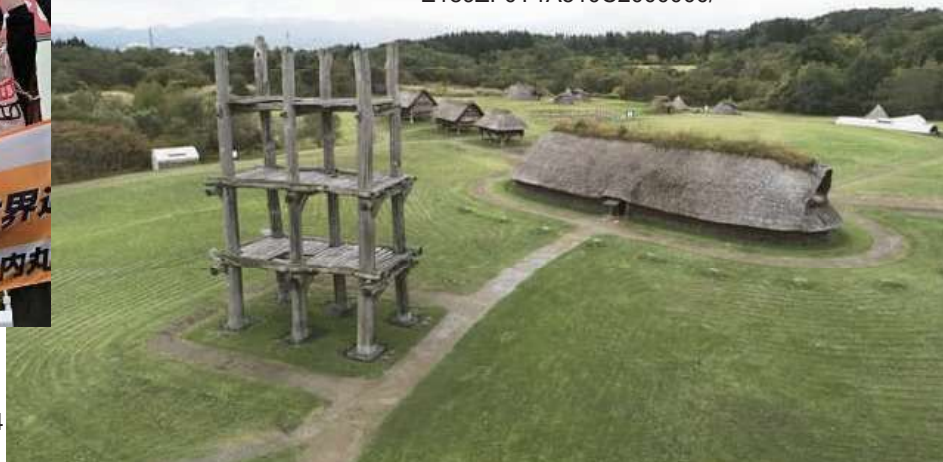


日経新聞

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOU E189ZF0Y1A510C2000000/>



北海道新聞21.5.28 https://www.hokkaido-np.co.jp/article_photo/list?article_id=548974



5

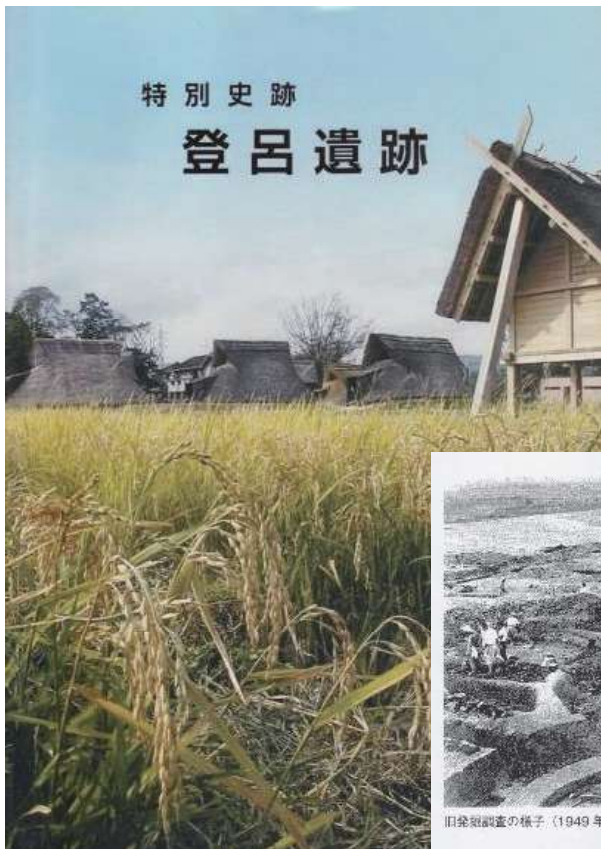
戦後日本の文化財保護制度と遺跡

- ・戦後日本では、考古学は大きく進展し、歴史学や自然科学分野の研究もあいまって、日本の歴史はかなり鮮明になってきた。考古学の発展は、何よりも、**全国各地で、多くの遺跡が発掘調査され、膨大な成果が蓄積されてきた**ことによる。
- ・**文化財保護法**により、土木工事で遺跡(埋蔵文化財)が影響を受ける場合は、**事前に発掘調査を行う**(年間約8000件)。発掘調査は基本的に行政が実施する。都道府県・市町村に考古学の文化財担当者がある(現在約5500人)。
- ・大半の発掘調査は土木工事に伴う調査であり、地域的な粗密の差はあるものの、全国各地で**悉皆的な発掘調査**が行われたことにより、**地域と国の成り立ちが解明**されてきた。新潟県も例外ではない。
- ・こうした遺跡の発掘調査と考古学の進展は、なぜうまれたのか？ —その**起点は、昭和20年(1945)の敗戦**にあった。

6

戦後の日本に夢と希望を与えた遺跡

登呂遺跡(静岡県) 1947~49年



- ・敗戦で戦前教えられた歴史を失った日本
- ・学界総出で調査に取り組む
- ・弥生時代(約2000年前)の集落と水田が発見
- ・国民上げて夢と希望を見た



旧築屋調査の様子(1949年)

戦後の発掘調査



出土した農具

発掘に関わった人たち(昭和25年)



日本考古学協会設立へ



登呂博物館の展示

7月21日、95歳で死去



戦後の日本考古学の「生き字引」だった大塚初重さん。取材では弥生時代の祭りの道具とされる銅鐸（どうたつ）のレプリカを持ち出し、千葉に应运じてくれた＝2015年1月、県成田市

登呂遺跡（静岡市）の発掘に始まる輝かしい研究者人生は、死と向き合った戦争が原点。「考古学は人間学」と説き、太古の実像を追い続けた。「片一端から蹴落とし、人殺しをした」。戦後70年の2015年、取材で考古学を志したときつかけを振り返ってもらうと、柔和な顔には似つかない言葉が飛び出した。1945年、海軍の1等兵曹として18歳で中国・上海に向かう途中、船が魚雷攻撃を受けた。脱

古代の追究 戦争原点

出するため、ワイヤローとなった綿貫観音山古墳につかまった。小説「蜘蛛の糸」のように、鮮やかな彩色壁画が目撃するために体にしがつかつた虎塚古墳（茨城県ひたちなか市）など、研究史に名を残す発掘を何度も手がけ、日本の疑問が出発点となり、考古学協会会長も務めた。その一方、飾らぬ復員後に明治大で考古学の道に。47年、弥生時代の稲作を証明した登呂遺跡の調査に参加。二分の手で今、歴史を明らかにしている。顔を紅潮させて語気を強め、当時の興奮を伝えてくれた。未盗掘の副葬品が国宝

「神風なんて吹かない」。戦前の皇国史観への疑問が出発点となり、考古学協会会長も務めた。その一方、飾らぬ復員後に明治大で考古学の道に。47年、弥生時代の稲作を証明した登呂遺跡の調査に参加。二分の手で今、歴史を明らかにしている。顔を紅潮させて語気を強め、当時の興奮を伝えてくれた。未盗掘の副葬品が国宝

「新潟日報」(共同通信系)2022.9.27

岩宿遺跡(群馬県)

1949年の発掘調査(1974年史跡指定)

- ・それまで未確認であった旧石器が発見され、歴史は1万年以上にさかのぼった。



- 遺跡と考古学は国民に希望を与え、その重要性が広く認識された。

文化財保護法の成立(1950年)

- 1950年『文化財保護法』制定。
1949年1/26 法隆寺金堂火災発生
- 戦前の国宝保存法(古社寺保存法<1897年>、史蹟名勝天然紀念物保存法(1919年)を継承、まとめる。
- 「埋蔵文化財」の規定(発掘届)誕生
→登呂遺跡などの影響で全国的に遺跡の発掘が盛んになり、調査方法などに問題が生じたため、それを規制。



戦後、国民は、国や地域の成り立ちの真実を知りたいと願い、各地に埋もれた遺跡に真の歴史を求めた。国民の理解と協力に支えられて、これまで多くの発掘調査が行われてきた。

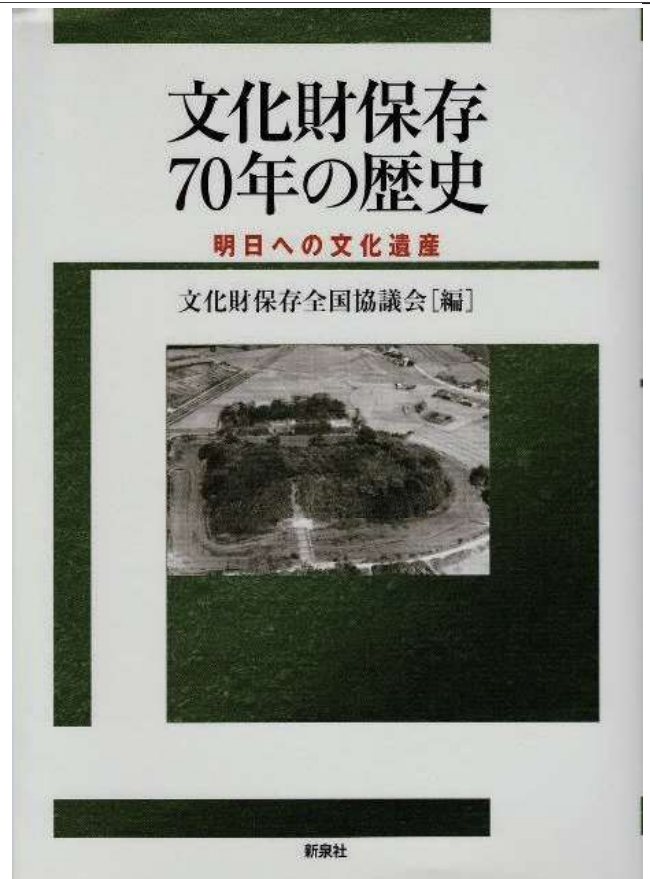
11

市民運動で保存された イタスケ古墳(大阪府堺市) 1955年史跡指定



■遺跡保存と市民運動

- 研究者だけではなく、わがまちの遺跡・文化財に対する住民の思いが保存の原動力
- 1922年史跡指定の特別史跡平城宮跡は、建築史の関野貞が確認し、地元の植木職人、棚田嘉十郎が保護運動を展開
- よい意味での郷土意識が遺跡保存を支える



2017年

12

2. 新潟にもあった古墳とその前史



龍鏡
(新潟県指定文化財)



菖蒲塚古墳 (国史跡・前方後円墳/西蒲区)

13

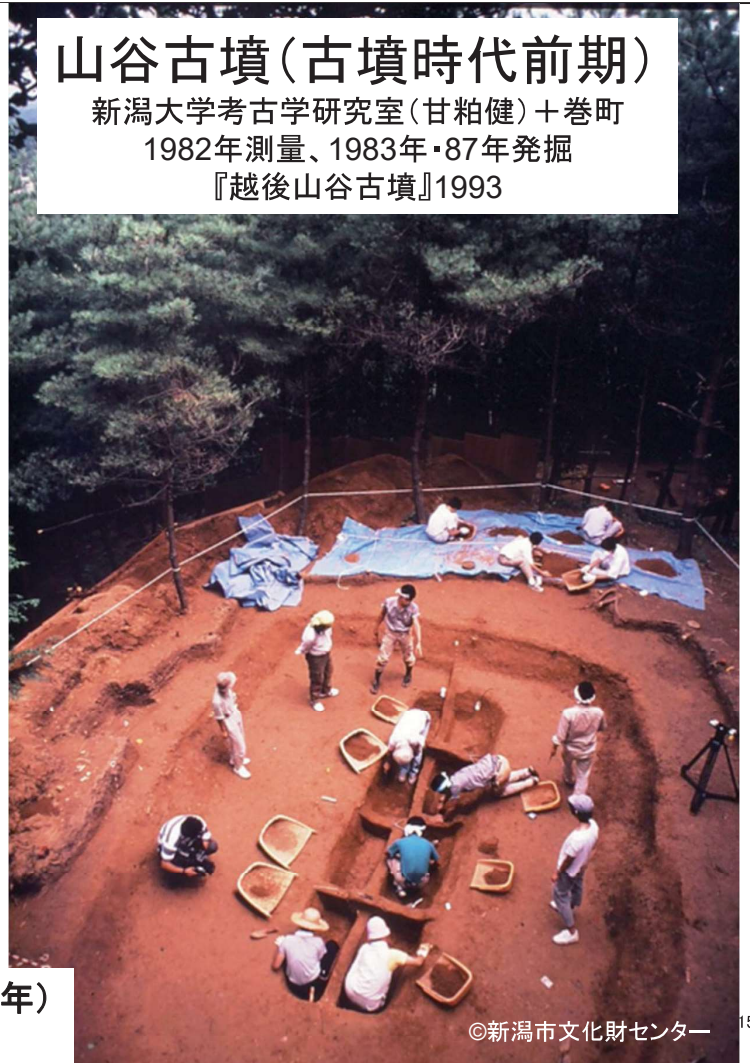
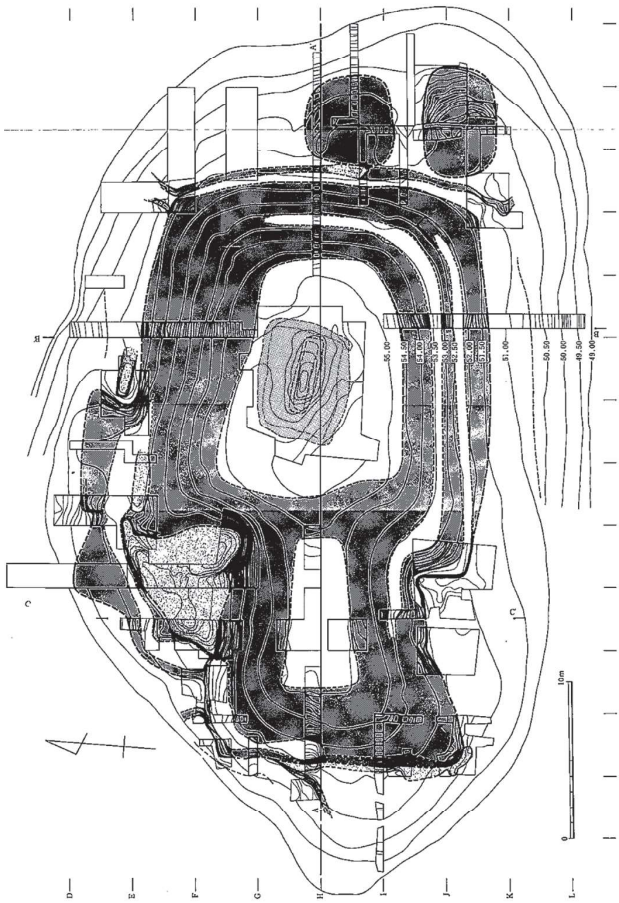
1) 山谷古墳の「発見」(旧巻町)

- 1981年11月25日:新潟県教育委員会による角田丘陵分布調査/東北電力鉄塔建設(高橋保氏・坂井)
- 山陰・北近畿でみられる弥生台状墓、古墳などの発見が期待された(指導:文化行政課金子拓男係長)
- 雨の中を踏査。午後薄暗くなりかけたとき、古墳を発見。きわめて端正な墳丘の形状であり、前方後方墳と判断できた。ほか1基(岩室・観音山古墳)
- 後日、巻町の藤田治雄氏が1959年に発見していたことが判明。当時は正しく評価されなかった。
- 新潟大学考古学研究室(甘粕健^{1977新大着任})・巻町教育委員会 (1982年測量)、1983年・87年発掘(『越後山谷古墳』1993)

14

山谷古墳(古墳時代前期)

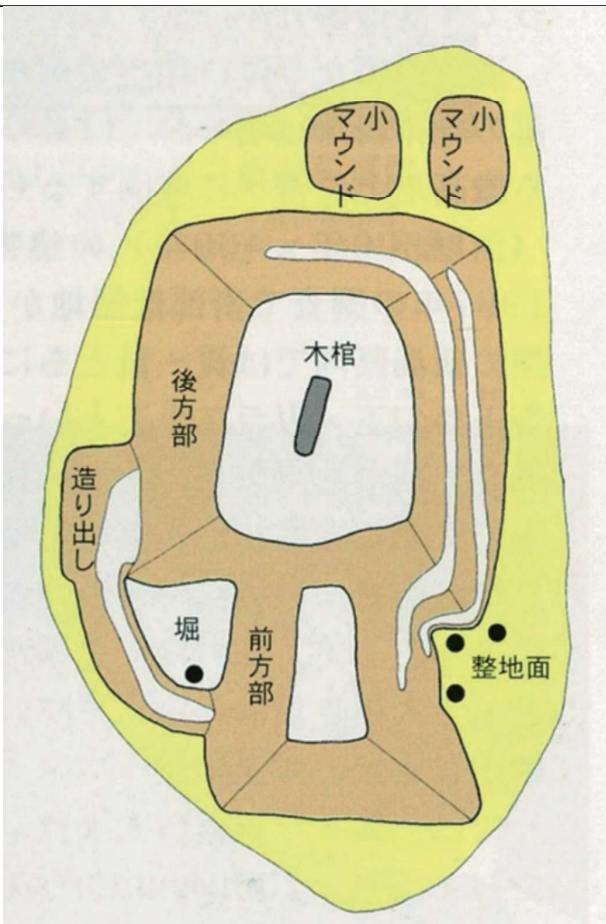
新潟大学考古学研究室(甘粕健)+巻町
 1982年測量、1983年・87年発掘
 『越後山谷古墳』1993



©新潟市文化財センター

1981年11月25日発見(じつは再発見1959年)
 新潟に古墳はないとの先入観)

山谷古墳平面図 と出土土器



●: 供献土器出土位置

* 1983年三条市保内三王山古墳群の確認
 84年測量、85・86年発掘(『保内三王山古墳群』1989)

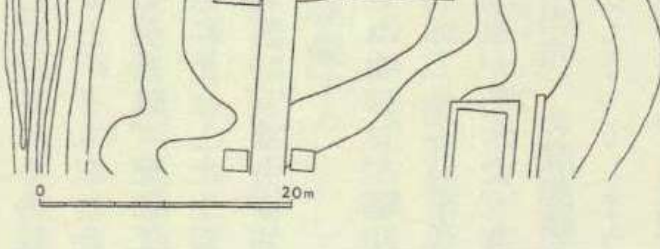
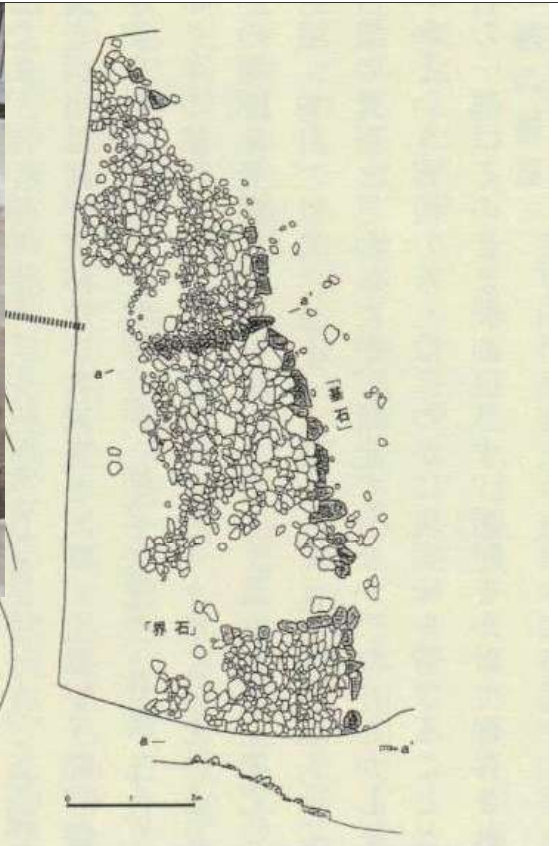
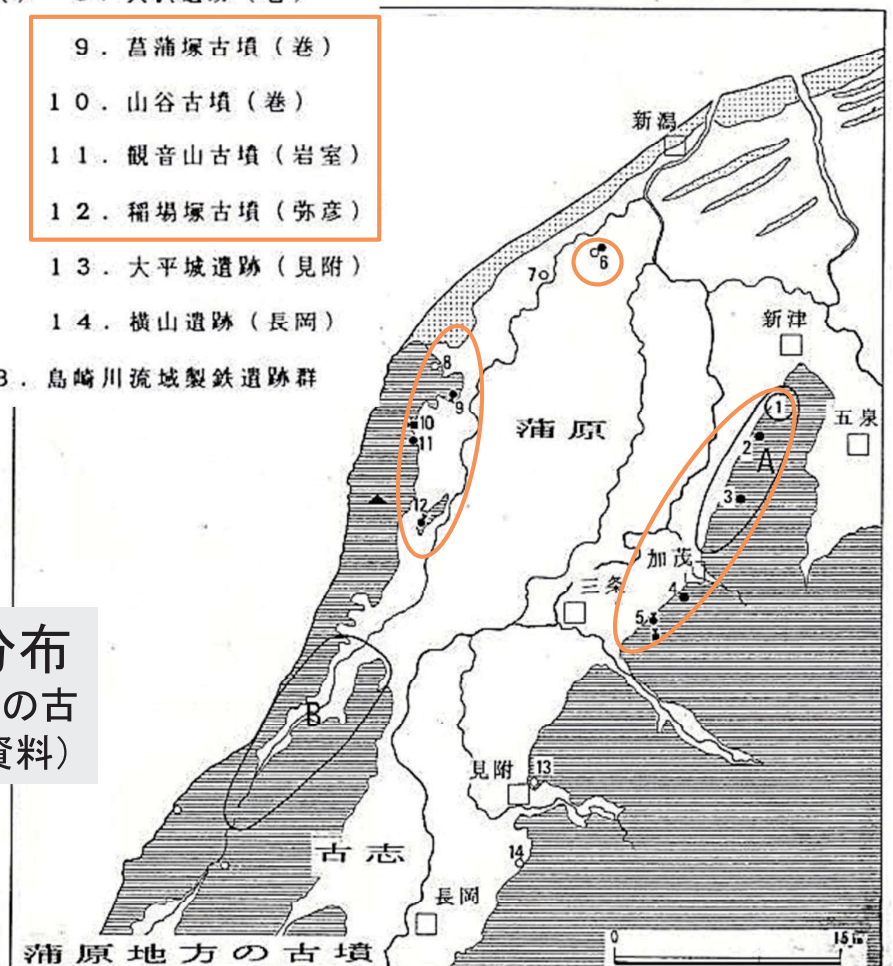


図29 緒立八幡宮古墳とその葺石

発掘調査の結果、直径約30メートルの円墳であることが明らかになった。墳丘表面には一定の規則に従って石が葺かれており、古墳を荘厳に際立たせている。古墳の周辺地域には、葺石となる石材はなく、おそらく魚田山麓から西川を通じて運とがみのと考えられる。町教委1082 川村1082より作成

黒埼町教委・國學院大學1981発掘調査 『黒埼町史』通史編 2000年

- | | |
|--------------------|----------------|
| 1. 八幡山 (新津・古津・蒲ヶ沢) | 8. 大沢遺跡 (巻) |
| 2. 矢代田円塚 (小須戸) | 9. 菖蒲塚古墳 (巻) |
| 3. ウワノエゾ塚 (田上) | 10. 山谷古墳 (巻) |
| 4. 福島 (加茂) | 11. 観音山古墳 (岩室) |
| 5. 保内三王山古墳群 (三条) | 12. 稲場塚古墳 (弥彦) |
| 6. 緒立八幡神社古墳 (黒埼) | 13. 大平城遺跡 (見附) |
| 7. 六地山遺跡 (新潟) | 14. 横山遺跡 (長岡) |
- A. 新津丘陵製鉄遺跡群 B. 島崎川流域製鉄遺跡群



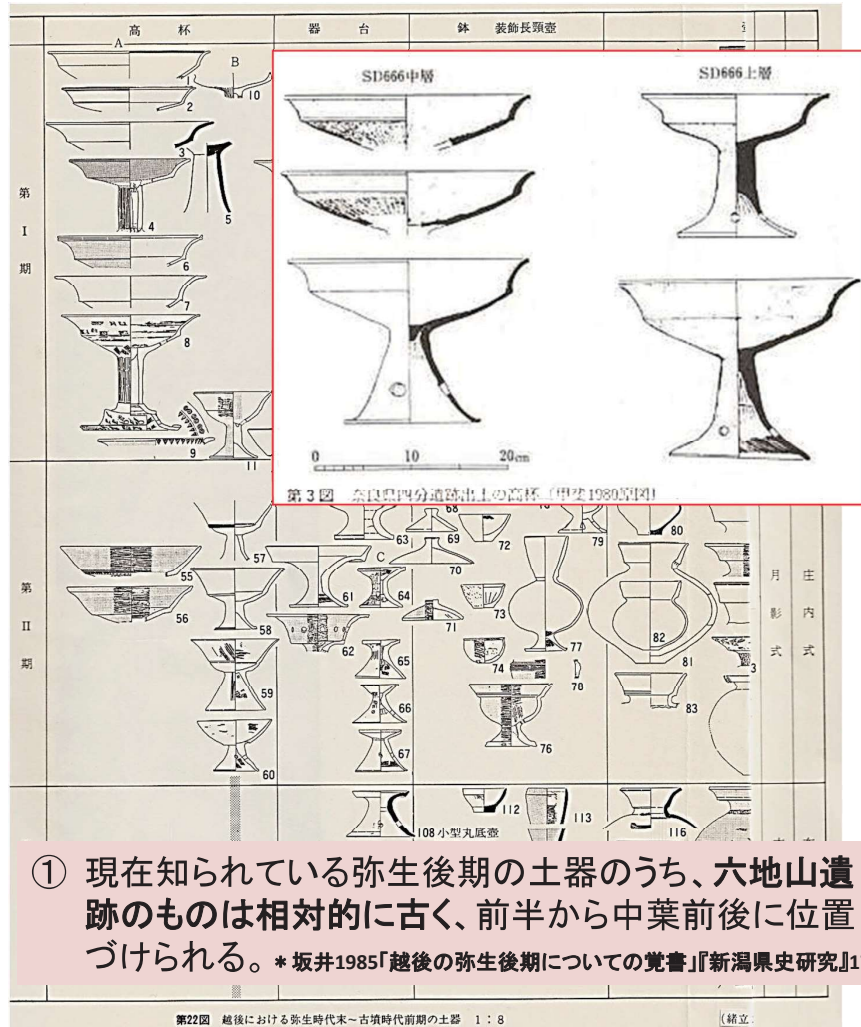
越後平野の古墳分布
(1988年2月講演会「新津の古代に思いをよせて」坂井資料)

2) 弥生/古墳の土器編年

第Ⅰ期
畿内V様式
末期
塚崎Ⅰ式

第Ⅱ期
庄内式
月影式

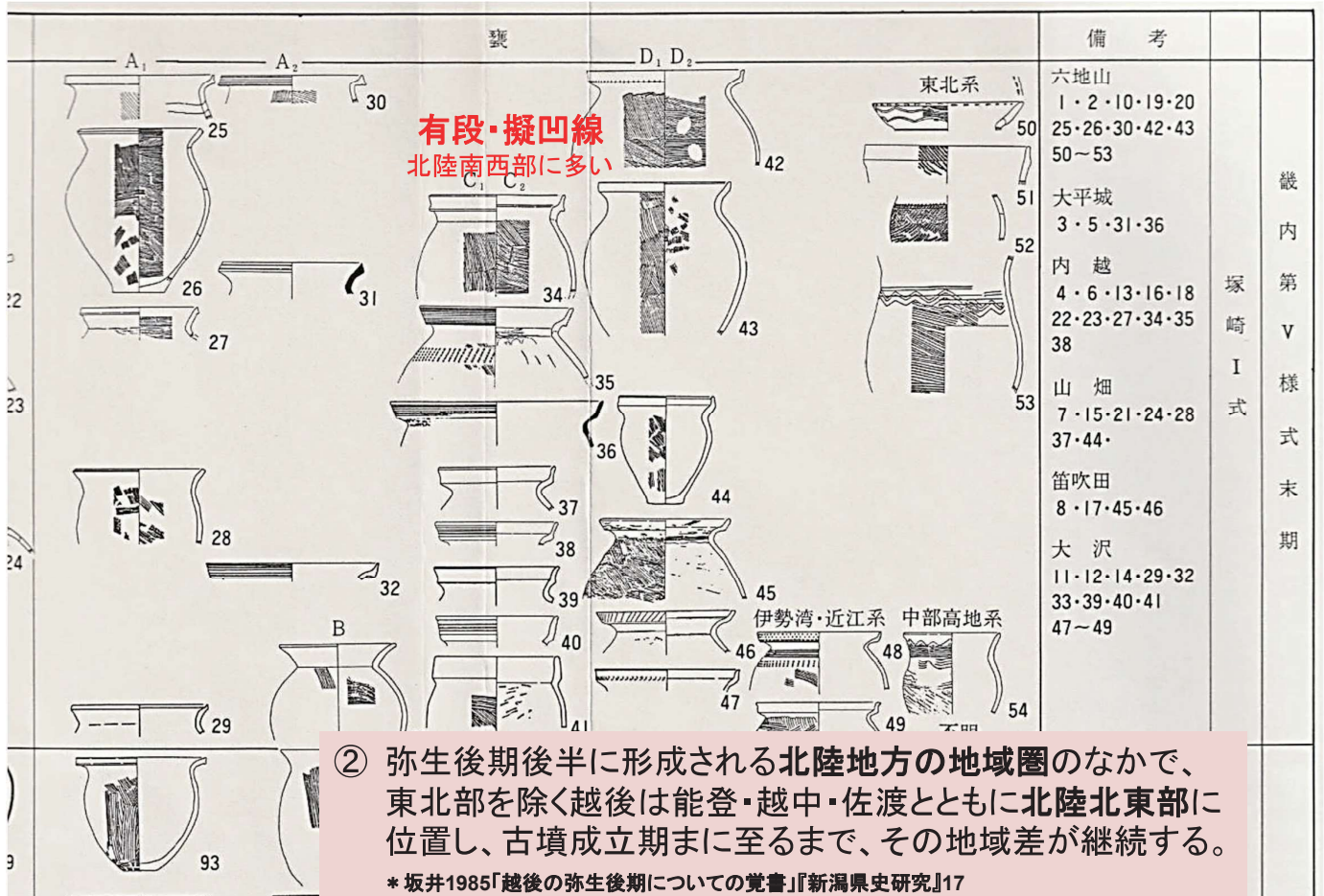
第Ⅲ期
布留(古)式
古府クルビ式



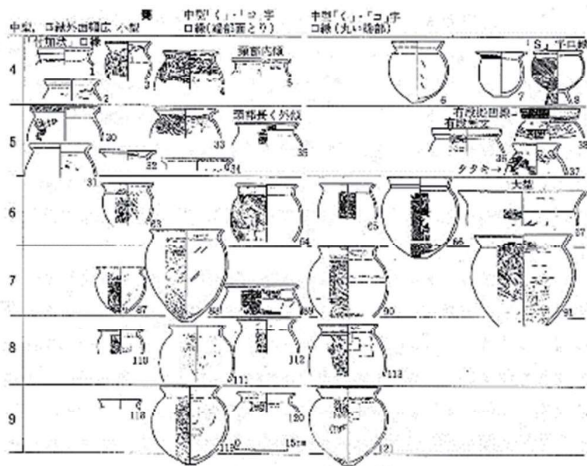
横山勝栄・坂井秀弥「内越遺跡出土土器の越後における編年的位置」『内越遺跡』(一九八三) 土器編年は金子拓男係長の指導

① 現在知られている弥生後期の土器のうち、六地山遺跡のものは相対的に古く、前半から中葉前後に位置づけられる。*坂井1985「越後の弥生後期についての覚書」『新潟県史研究』17

第22図 越後における弥生時代末～古墳時代前期の土器 1:8 (緒立)

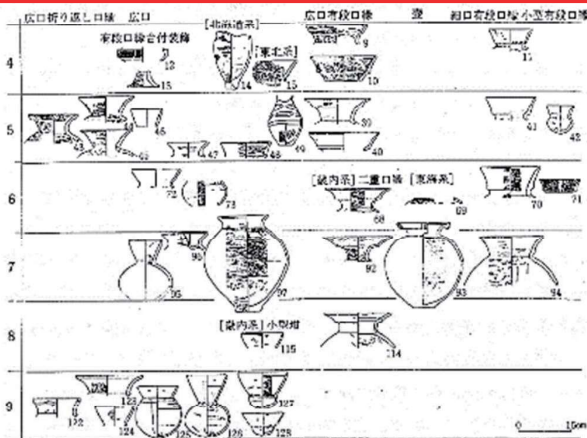
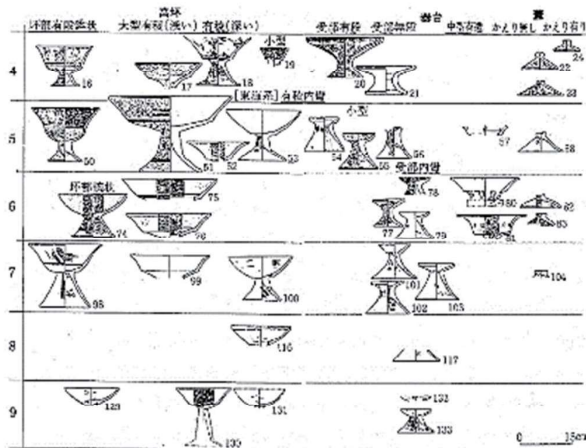


② 弥生後期後半に形成される北陸地方の地域圏のなかで、東北部を除く越後は能登・越中・佐渡とともに北陸北東部に位置し、古墳成立期まに至るまで、その地域差が継続する。
*坂井1985「越後の弥生後期についての覚書」『新潟県史研究』17



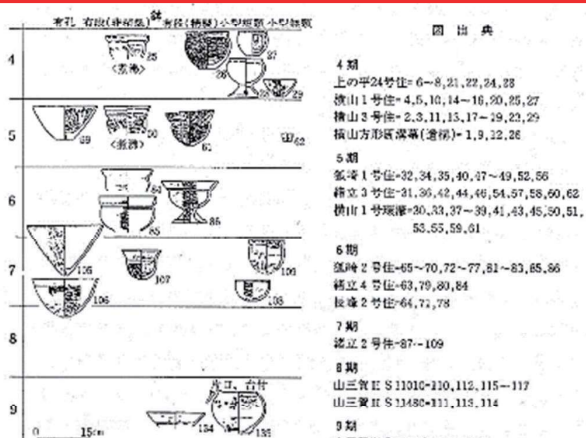
庄内

布留O



庄内

布留O

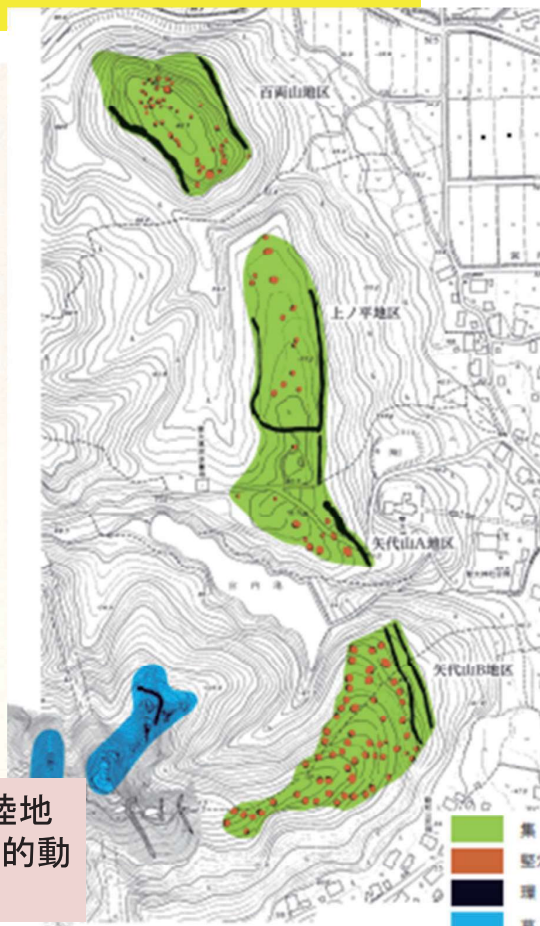
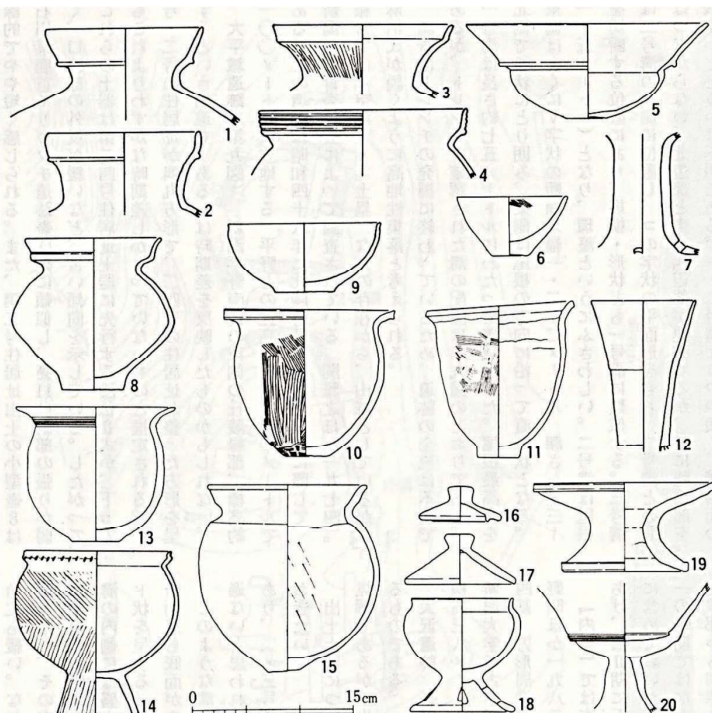


第14回 越後の土器編年図1 (坂井・川村1993)

新潟県の土器編年 (坂井・川村1993)

川村浩司氏が主導した日本考古学協会新潟大会は東日本の広域編年に大きく寄与

3) 高地性集落の存在



③ 越後でも高地性集落が存在し、同時期の北陸地方に共通し、畿内を中心とした西日本の社会的動乱が及んでいたことがうかがえる。坂井1985

紫雲出山遺跡

紫雲出山(三五二)の山頂に形成された。弥生時代中期の高地性遺跡、昭和二年地元郷土史家前田雄三氏が発見し、昭和二年から三十二年にかけて、当時の京都大学講師小林行雄先生によって発掘調査された。
土器の包含層は山頂一番に広がり、住居址と思われる列石遺構のほかには貝塚も発見されている。出土品は、弥生時代中期から中期末の多数の土器のほか、打製石楯、石槍、環状石斧、打製石斧、磨製石斧、分銅形土製品、貝輪、鉄器片、シコクビエなどがみられる。
なかでも大きくて重量性のある石楯が多数出土していることは、こくに注目され、荘内半島の最高所に立地するという地形上の特性からも、軍事的、防禦的性格を帯びた特殊な遺跡として学界でも注目されている。

詫間町教育委員会

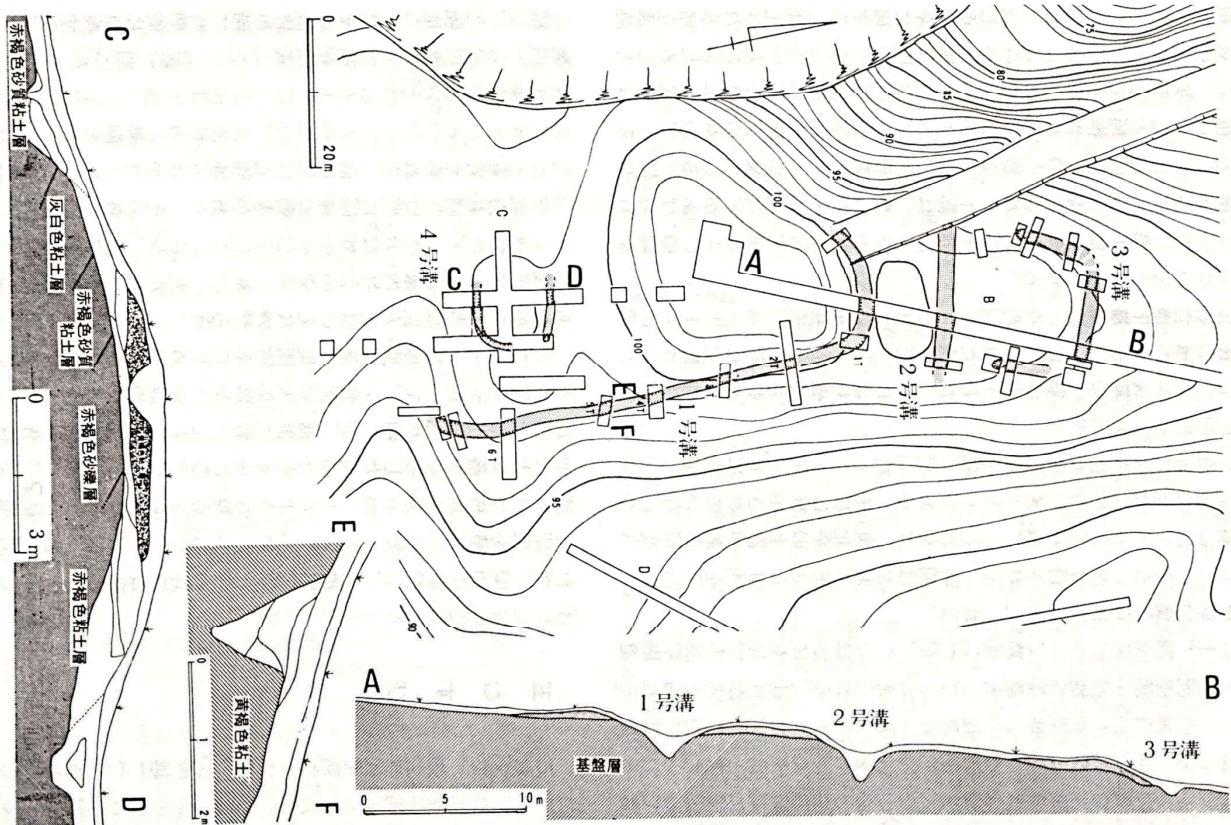
瀬戸内の高地性集落(香川県紫雲出遺跡)



- 1 豊浦町・曾根遺跡
- 2 新潟市・六地山遺跡
- 3 黒埼町・緒立遺跡
- 4 巻町・大沢遺跡
- 5 三条市・狐崎遺跡
- 6 見附市・大平城遺跡
- 7 長岡市・横山遺跡
- 8 西山町・内越遺跡
- 9 西山町・高塩B遺跡
- 10 吉川町・長峰遺跡
- 11 上越市・山畑遺跡
- 12 新井市・斐太遺跡 **国史跡1977**
- 13 糸魚川市・笛吹田遺跡
- 14 金井町・千種遺跡
- 15 真野町・若宮遺跡
- 16 真野町・浜田遺跡

第21図 越後における弥生時代終末～古墳時代前期の遺跡分布図

第9図 大平城遺跡の溝の配置 (関1974原図をもとに作成)



大平城跡

* 中世の城跡として調査された

* 巻町大沢遺跡

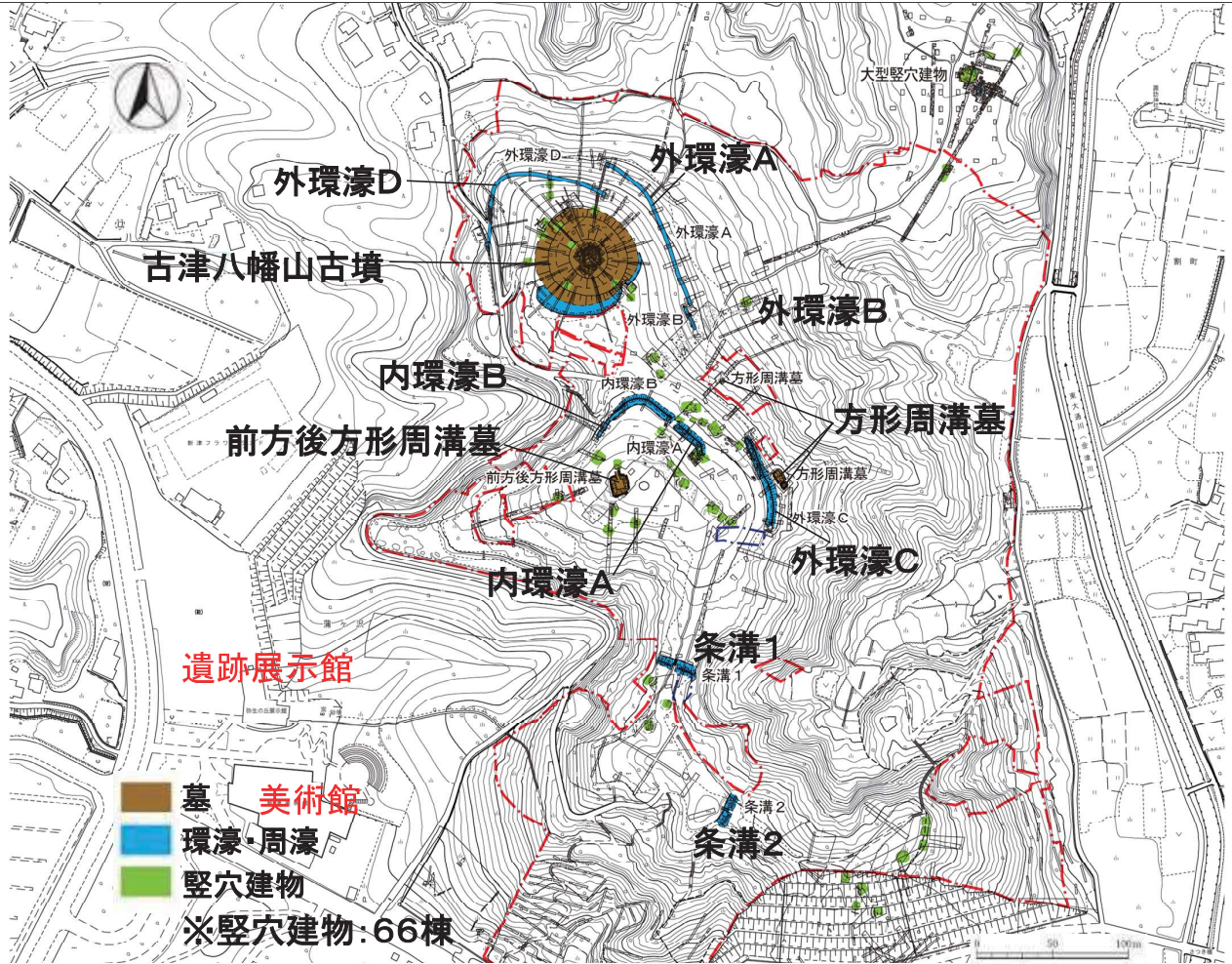
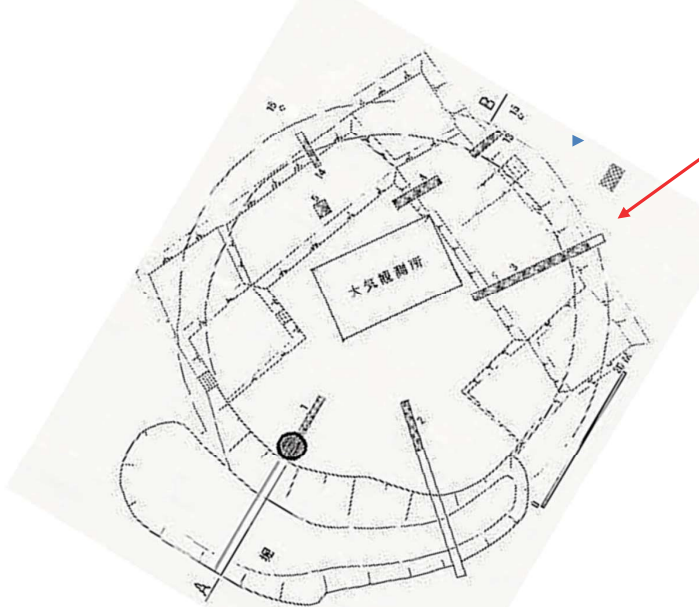
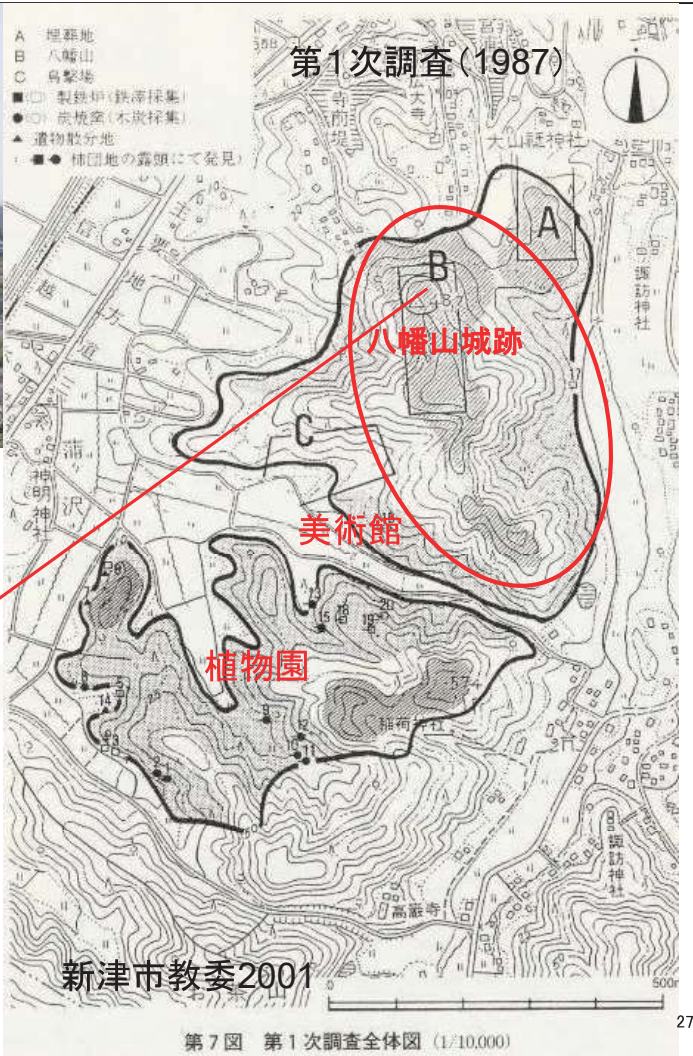
25

3. 古津八幡山遺跡の発見

(第1次調査)

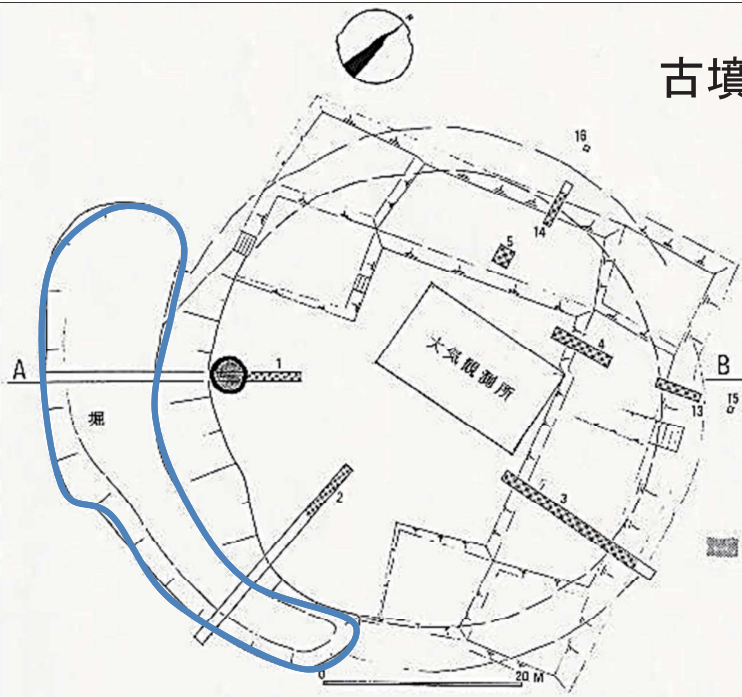
- 1987年：磐越自動車道建設に伴う盛土土砂採取、および新津市総合運動公園建設(約45ha)の計画
- 確認されていた遺跡：鳥撃場遺跡(縄文)、埋葬地遺跡(縄文)、八幡山城跡(中世)、居村製鉄遺跡(古代)
- 87年9月28日～10月9日/埋蔵文化財の確認調査：主体は新津市教委、調査員は県文化行政課職員(戸根氏・坂井^{10/5~9}ほか、寺崎氏から対象地の確認を十分行うよう指示される)
- 調査成果：大型円墳、大規模弥生集落、大規模古代製鉄遺跡等の確認

26

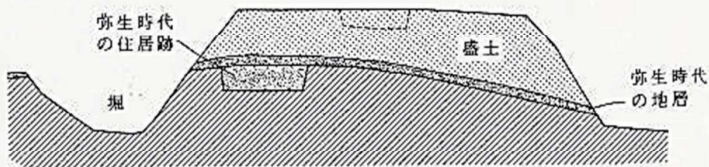


古津八幡山遺跡遺構平面図

古墳の墳丘、トレンチ平板実測図



(断面模式図)



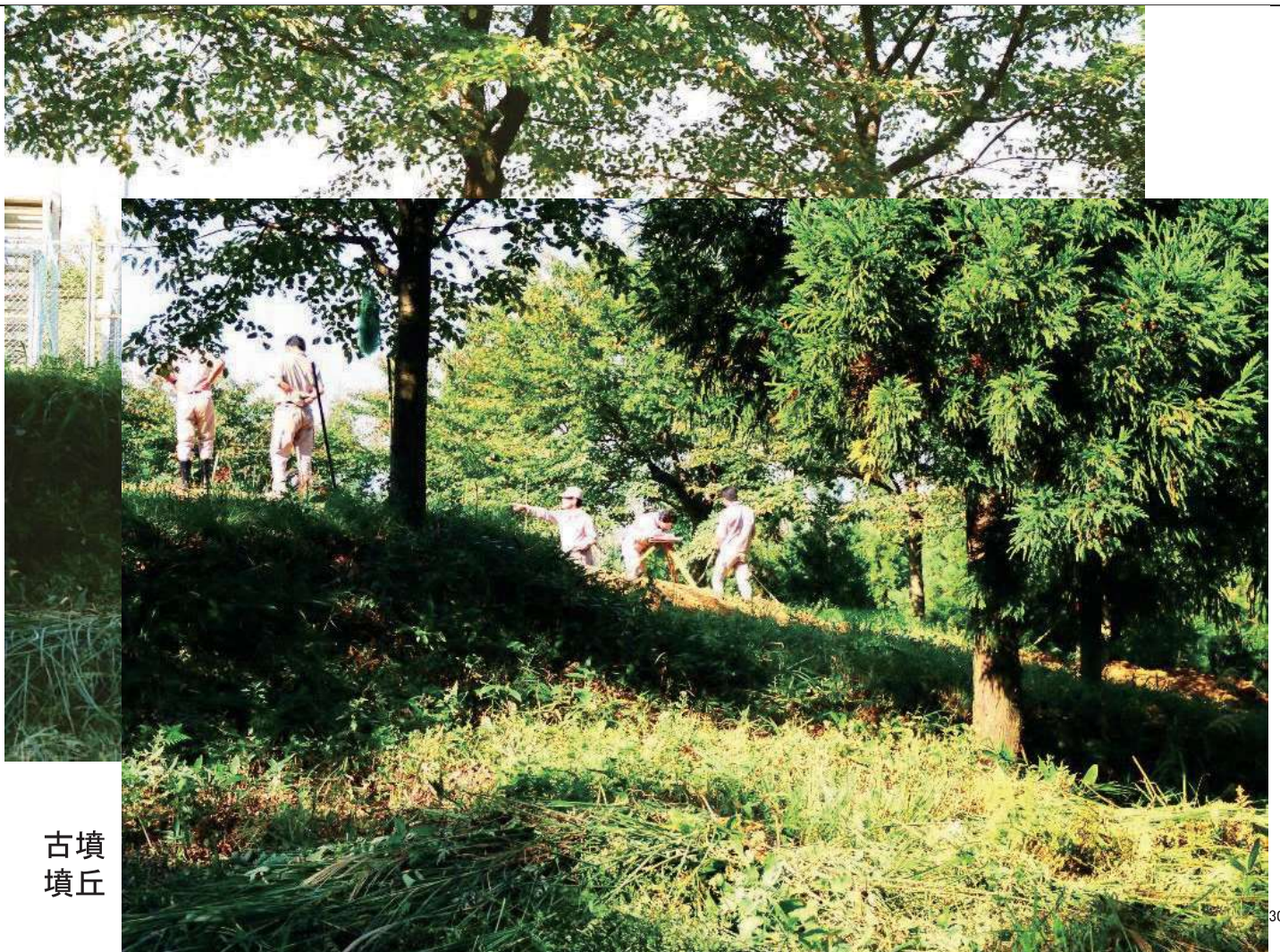
八幡山古墳

坂井1988年2月講演資料

【坂井手帳メモ】

- 10/5: 八幡山、大円墳か？
- 10/6: 居村製鉄踏査
- 10/7: 居村製鉄踏査
- 10/8: 居村製鉄踏査
- 10/9: 八幡山古墳実測

皮膚科受診



古墳
墳丘



古墳・堀/トレンチ



第1次調査1トレンチ/竪穴建物

SI0101竪穴住居



第1次調査1トレンチ
彌生包含層と古墳盛土



新津市文化財審議会委員(田村賢雄氏)

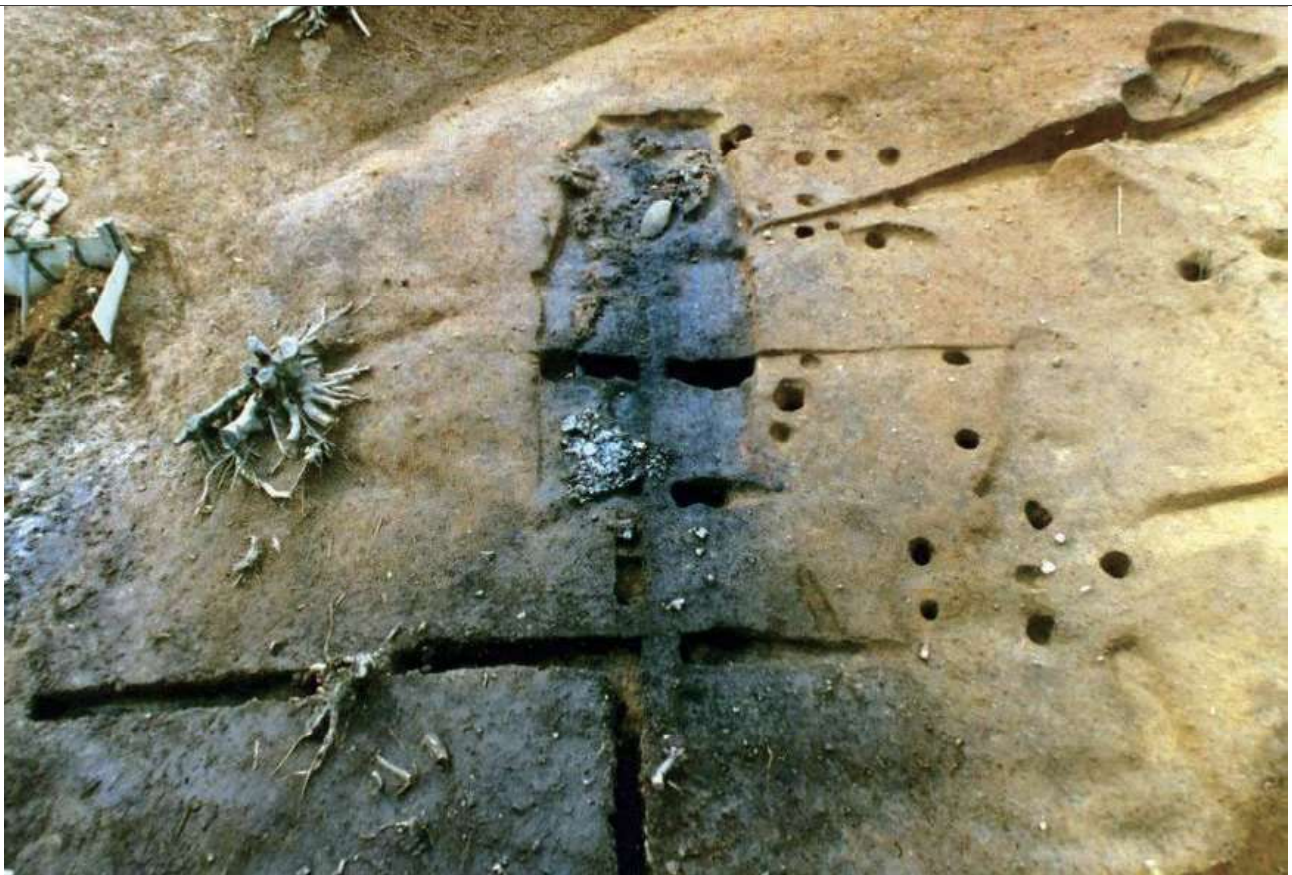


製鉄関連遺構(製鉄炉・木炭窯)の分布調査



越後国蒲原郡の製鉄基地(秋葉区/居村遺跡E地点8C代)

35



居村遺跡E地点(8世紀)

箱形炉

36



第1次調査報告

(新津市2001『八幡山遺跡発掘調査報告書』引用)

- 八幡山城跡: 堀と盛土の形状・構造から中世の山城とは考えられず、古墳時代の円墳とみるのが妥当と考えられる(仮称: **八幡山古墳**)。(略)直径55m以上の円墳とすれば県内最大である。⇒新潟大学1991年測量調査
- 古墳造営前には、この丘陵尾根上に弥生時代中期～後期の集落跡が存在する(仮称: **八幡山遺跡**)。遺跡の広がりには今回の調査では確認できなかったが、尾根のピークまで延びていたことは確認された。土器は東北地方南部に分布する天王山式土器で、県内では数少ない例である。なお、**丘陵尾根上に立地することから、一般的な農村ではなく、特殊な性格をもつもの**と考えられる。
- 弥生時代の集落、古代の製鉄遺跡は分布・確認調査が不十分なので、さらに詳細な調査を要する。